

## ワールドマスターズ国際大会&lt;WMG&gt;の招致について（検討）

平成 25 年 3 月  
本部事務局

## 1 基本的な考え方（案）

各府県市からは、開催内容や負担についての検討が必要等の留保つきながら、招致自体は賛同の声が大勢。ただし具体化していないことから一部、慎重論もあり。

→ 招致についての検討調整を進めることとし、8月トリノ大会の状況をみて最終判断

（検討調整を進めるとした場合）

## 2 連合としての対応（案）

（1）IMGAに対する返書 →成案として調整のうえ、5月までに発出想定

〔骨子案〕

広域連合（及び構成団体）として、

- ・ WMGの関西への招致について検討を進めている。
- ・ トリノ大会を見てさらに検討を深めた上で、招致について最終判断する。

（2）当面の検討体制 →速やかに立ちあげ

競技種目、開催会場や財政計画等につき検討、関係団体と調整

- ・ 広域連合（構成7府県4市）や連携3県  
各府県市スポーツ担当課（教委等）  
広域観光振興局、各府県市の観光担当課  
本部事務局
- ・ 経済団体、SC関西（「WMGを関西に誘致する会」）事務局など

検討PTの  
メンバーは調整

〔当面のスケジュール〕

4月 IMGAへの返書調整

検討PT立ち上げ、開催計画の想定検討、関係機関との調整

5月 IMGAへ返書

6月 検討状況の協議①

（7月 IMGAの求める開催計画書の提出期限）

8月 （検討調整が進めば）トリノ大会[8/2～11]を訪問

～ トリノ大会を踏まえた検討状況の協議② ～

～ 最終判断

○IMGAからの文書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・別紙1

○SC関西作成資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・別紙2

2012年10月10日  
(スイス・ローザンヌ日付)

関西広域連合長  
兵庫県知事  
井戸敏三 様

ワールドマスターズゲーム (World Masters Games) は、過去25年にわたり4年ごとに開催されてきた大会です。大会規模と出場者数は増大しており、オーストラリア・シドニー市で開催された2009年大会には約3万人の選手が参加しました。次の2013年大会はオリンピック都市でもあるトリノ市で開催される計画であり、次の2017年大会は、ニュージーランドのオークランド市で開催されることが最近決定しました。

多数の会場で行われる30競技への出場者規模に対応できるだけの時宜を得た綿密な計画が最重要となるため、国際マスターズゲームズ協会 (International Masters Games Association: IMGA) は、このような大型のスポーツ大会を成功裏に開催するために適切な収容能力を有した開催都市を選定しています。これらの開催都市とのパートナーシップによって質の高い大会を提供してきた能力は、国際オリンピック委員会 (International Olympic Committee)、ならびに、国際パラリンピック委員会 (International paralympic Committee) から十分な認識を受けており、本協会が誇るべき名誉となっています。

大阪、京都、神戸、の各都市は、文化とスポーツの背景に富み、日本で発展しているマスターズスポーツのムーブメントと相まって、ワールドマスターズゲームズを共同開催する能力があると信じております。

国際マスターズゲームズ協会は、マスターズスポーツのムーブメントの強化と拡大をミッションとしています。このミッションを成し遂げるステップは、アジアにおいて本大会の開催を実現することであり、前述した理由だけでなく、人口高齢化の中で健康的なライフスタイルやウエルビーイング (Wellbeing) に対する関心度が高まっている意味からも、日本こそが本大会の理想的な開催地であると考えています。このような理由により、国際マスターズゲームズ協会の理事会においては、本協会が定めた基準に合致した大会開催提案書が、もし2013年7月までに貴市から提出された場合には、2021年大会の開催を日本に指定することで決定いたしました。

また、本大会の開催は、既に行われているヨーロッパ大会や、これから開催予定である北南米アメリカ大会のように、アジアマスターズ大会 (Asian Masters Games) のような地域大会を創設していくためにも有効です。このような除幕的な発足イベントは、ワールドマスターズゲームに繋がるウォーミングアップ大会として、2016年あるいは2018年に開催することが可能だと思われれます。

以上のことに皆様に関心を示して頂き、本提案のさらなる具体的な競技を進めるために、美しい日本を訪れることができればこの上ない喜びと光栄に存じます。

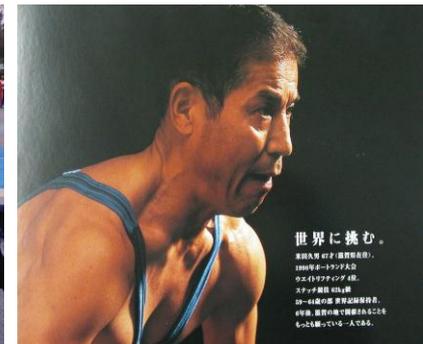
将来に向けてのパートナーシップを祈願して

国際マスターズゲームズ協会会長  
Kai Holm (カイ・ホルム)

国際マスターズゲームズ協会(IMGA)が4年ごとに主催し、30才以上の成人・中高年の一般アスリートを

対象とした生涯スポーツの国際総合競技大会です。

- 予選はなく登録すれば大会出場可能。競技資格や選抜基準はなく、唯一の参加基準は年齢のみで上限はなし。
- 約30競技から成るプログラムに複数エントリーすることが可能。
- 男女・年代別(通常5才ごと)に種目が行われ、各年代別にメダルが授与される。
- 元プロや元オリンピック選手も出場し、キャリアを超えて一般アスリートと競技を行う。
- チームスポーツやペアスポーツは多国籍チームでの出場も可能。
- 平均9日間の大会期間と前後の観光滞在のため、生涯スポーツ大会では最長の滞在期間。



# ワールドマスターズゲームズとオリンピックとの違い

大会誘致に向けて

	ワールドマスターズゲームズ	オリンピック																								
<b>概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●原則4年ごとに開催されるマスターズ世代を対象とした世界規模の国際総合スポーツ競技大会。</li> <li>●2010年から冬季大会も開催されている。</li> <li>●国や地域を背おわず、誰でも参加できる。</li> <li>●ツーリズム・イベントとして認知されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●4年ごとに開催される世界のアマチュアのトップクラスを対象とした国際総合スポーツ競技大会。</li> <li>●各国・各地域から代表を選抜して参加する。</li> </ul>																								
<b>統括組織</b>	世界:IMGGA ヨーロッパ:EMGA、アジア、日本を統括する組織は現在はない。	世界:IOC 日本:JOC																								
<b>実施組織</b>	各都市が設立した実行委員会	各都市が設立した実行委員会																								
<b>近年の実施(予定)都市</b>	<table border="1"> <tr> <td>[夏季]</td> <td>[冬季]</td> </tr> <tr> <td>2002:メルボルン</td> <td>2010:ブレッド</td> </tr> <tr> <td>2005:エドモントン</td> <td>2015:セストリエーレ</td> </tr> <tr> <td>2009:シドニー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2013:トリノ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2017:オークランド</td> <td></td> </tr> </table>	[夏季]	[冬季]	2002:メルボルン	2010:ブレッド	2005:エドモントン	2015:セストリエーレ	2009:シドニー		2013:トリノ		2017:オークランド		<table border="1"> <tr> <td>[夏季]</td> <td>[夏季]</td> </tr> <tr> <td>2000:シドニー</td> <td>1998:長野</td> </tr> <tr> <td>2004:アテネ</td> <td>2002:ソルトレイク</td> </tr> <tr> <td>2008:北京</td> <td>2006:トリノ</td> </tr> <tr> <td>2012:ロンドン</td> <td>2010:バンクーバ</td> </tr> <tr> <td>2016:リオデジャネイロ</td> <td>2014:ソチ</td> </tr> </table>	[夏季]	[夏季]	2000:シドニー	1998:長野	2004:アテネ	2002:ソルトレイク	2008:北京	2006:トリノ	2012:ロンドン	2010:バンクーバ	2016:リオデジャネイロ	2014:ソチ
[夏季]	[冬季]																									
2002:メルボルン	2010:ブレッド																									
2005:エドモントン	2015:セストリエーレ																									
2009:シドニー																										
2013:トリノ																										
2017:オークランド																										
[夏季]	[夏季]																									
2000:シドニー	1998:長野																									
2004:アテネ	2002:ソルトレイク																									
2008:北京	2006:トリノ																									
2012:ロンドン	2010:バンクーバ																									
2016:リオデジャネイロ	2014:ソチ																									
<b>選手の参加条件</b>	無条件、参加料を払った人全員	各国オリンピック委員会(NOC)が選抜																								
<b>大会規模</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●選手参加者数:95か国、約28,000人(シドニー大会時)</li> <li>●総事業費:20億円(2009年滋賀大会招致時の予算)~24億円(シドニー大会)</li> <li>●会場は既存施設を活用し、新たな施設を作る必要がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●選手参加者数:204か国、約11,000人。(北京大会時)</li> <li>●総事業費:約3000億円(2016年東京大会招致時の委員会予算)</li> <li>●その他施設整備費は約3000億円強</li> </ul>																								
<b>招致費用(参考)</b>	数千万円(2009年滋賀大会招致のための委員会の費用)	約150億円(2016年東京大会招致のための委員会費用。うち東京都負担分約55億円)																								

## ワールドマスターズゲームズ主催団体(IMGA:International Masters Games Association)」

### <IMGA会長>

Kai Holm

元IOC(国際オリンピック委員会)メンバー、  
元NOC(国内オリンピック委員会)デンマーク会長

### <IMGA理事>

Tamas Ajan

IOCメンバー、国際ウェイトリフティング連盟(IWF)会長

Denis Oswald

IOCメンバー、国際ボート連盟(FISA)会長

Gian-Franco Kasper

IOCメンバー、国際スキー連盟(FIS)会長

Gianni Gola

国際ミリタリースポーツ評議会(CISM)元会長

Bob Elphinston

国際バスケットボール連盟元会長

Phil Craven

IOCメンバー、国際パラリンピック委員会(IPC)会長

Anders Besseberg

国際バイアスロン連合(IBU)会長

Don Porter

国際ソフトボール連盟(ISF)会長

Marisol Casado

IOCメンバー、国際トライアスロン連合(ITU)会長

Pat.McQuaid

IOCメンバー、国際自転車競技連合(UCI)会長

Jose Perurena

IOCメンバー、国際カヌー連盟(ICF)会長

Richard L. Carrion

IOC理事、IOC財政監査委員会議長

John D. Coates

IOC理事、NOCオーストラリア会長、スポーツ仲裁裁判所(CAS)所長

Carlos A. Nuzman

IOCメンバー、NOCブラジル及びNOCリオ会長

# ワールドマスターズゲームズの開催地と大会規模

大会誘致に向けて

開催年		開催国	開催都市	開催立候補地	参加者数	参加国数
1985年	第1回	カナダ	トロント		8300	61
1989年	第2回	デンマーク	ヘアニング、オールボー オーフス(3都市開催)		5500	76
1994年	第3回	オーストラリア	ブリスベン・クイーンズランド州	ミネアポリス	25000	71
1998年	第4回	アメリカ	ポートランド・オレゴン州	ダーバン	25000	100
2002年	第5回	オーストラリア	メルボルン：・NSW州	ブダペスト、サクラメント	26000	97
2005年	第6回	カナダ	エドモントン	セビリア、ローマ、オタワ	22000	88
2009年	第7回	オーストラリア	シドニー：NSW州	滋賀、ミュンヘン、 モントリオール、コペンハーゲン	32000	95
2013年	第8回	イタリア	トリノ	コペンハーゲン、ストックホルム アムステルダム、デトロイト	50000 (目標値)	100 (目標値)
2017年	第9回	ニュージーランド	オークランド	バンクーバー、オタワ ゴールドコースト		
2021年	第10回		2016年IMGA総会にて決定			

## 競技候補(モデル案)

16コア競技(必須)	海外(人)	国内(人)	計(人)
アーチェリー	190	50	240
陸上競技	1,890	770	2,660
バドミントン	580	1,390	1,970
バスケットボール	1,190	830	2,020
カヌー	590	50	640
自転車競技	750	170	920
サッカー(フットサル)	2,040	380	2,420
フィールドホッケー	760	240	1,000
オリエンテーリング(縦走)	780	110	890
ボート競技	1,420	200	1,620
射撃	280	50	330
ソフトボール	1,780	2,210	3,990
スカッシュ	300	130	430
卓球	190	780	970
トライアスロン	500	340	840
重量挙げ	310	110	420
計	13,550	7,810	21,360

オプション競技(選択)	海外(人)	国内(人)	計(人)
野球(硬式・軟式)	690	1,060	1,750
ゴルフ(コース・グラウンド)	510	410	920
水泳	1,250	3,150	4,400
ラグビー	330	420	750
ボウリング	180	470	650
テニス(硬式・軟式)	450	730	1,180
ダンススポーツ (エアロビクス、社交ダンス)	-	340	340
日本武道・アジア武術 (柔道・剣道・空手・弓道・太極拳・テコンドー)	-	490	490
ウォーキングスポーツ	-	520	520
綱引き	-	80	80
フィッシング	-	60	60
ヨット	330	40	370
ハンドボール	50	810	860
バレーボール	800	1,010	1,810
計	4,590	9,590	14,180

総計 35,540人

SC関西作成